

SCOAP³について

2015 年 1 月 15 日

国立情報学研究所

1. 概要

SCOAP³の Governing Council (GC) が、2014 年 12 月 17 日に CERN で開催された。2014 年 1 月から高エネルギー関係の 10 誌が OA 化されており、その一年目の総括が行われた。日本から、KEK の近藤敬比古名誉教授と NII の安達がメンバーとして参加した。

2. 主な報告事項

参加者数は、39 人（内、9 人がリモート参加、5 人がオブザーバ）。これにより、37 議席のうち、33 議席分が出席で定足数を満たした。MoU の数は、この一年で、19 から 43 に増えた。その内、3 は国際機関である。これを参加図書館数で換算すると 2,500 を越える。日本からは現在 34 図書館が参加しており、参加すべき図書館で未拠出のものは 14 館である。金額でみると、この一年で、2.8MEuro から 4.17MEuro へ拠出額の総額が増えた。これは一年当たりの金額である。なお、目標は 5MEuro で、日本に期待される拠出額は、390,500Euro である。

SCOAP³により OA 化される論文数は着実に増えている。拠出額を算定する根拠とした 2011 年には当該 10 誌で 3,552 論文出版されたが、2014 年中に 4,287 論文が発行されると予想され、平均の実効的 APC は 1,068Euro、約 81%に下がることになる。これは Gold OA 誌の APC の水準から見ても低くなっている。

この他、SCOAP³誌の規格については、DOI 付与、CC BY ライセンス表示、ファイル形式とも問題ない品質で提供されていることが報告され、またリポジトリとその API の公開などが開始されたことも紹介された。

CERN 所長の挨拶のなかで、APS と CERN との話し合いが始まっていることが紹介された。

3. 主な審議事項

Executive Committee(ExCo)の委員の任期が暫定的に 1 年だったので、その継続とともに残る任期を 1 年、2 年、3 年の委員に分け、順に交代し継続性を保つようにした。日本からは安達が委員(2015 年末まで)。GC の議長として 2016 年末までドイツの Ralf Schimmer、副議長として Ivy Anderson を選んだ。また、IAEA を国際機関メンバーとして加入させることにした。また、Audit Committee を作り、座長に安達が任じられた。

最後に、次期(2017 年から 3 年)の契約をどうするかという課題の議論を開始することにして、3 月の ExCo にて議論を深め、6 月の次回 GC で進め方を絞り込んでいくという方針が提案された。

以上